

若き力で地元愛



柴又ふーてんベッドアンドローカル

—旅の道中が楽しくなる宿を目指して—

葛飾区民記者・かつしかPPクラブ

隅田 昭

まえがき



柴又ふーてんベッドアンドローカルは、葛飾区内で2017年にオープンしたばかりのシンプルで、リーズナブルな宿泊施設である。

全室が個室のゲストルームは、2人用の和室と洋室から選べるほか、4人や6人で宿泊できる部屋はリニューアルしたばかりだ。

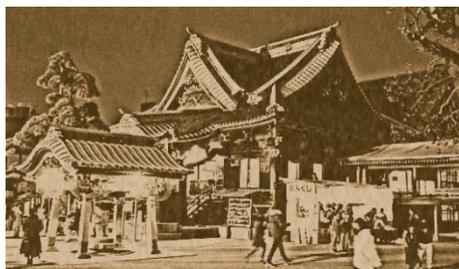
「昭和の下町」をオマージュし、改築した施設は、宿泊客がくつろげるラウンジのほか、便利なランドリーやキッチンも併設する。

また個人利用だけではなく、会議室や談話室も安く利用できる。記者は施設の持つ可能性を探った。

SHIBAMATA FU-TEN BED&ROCAL

もくじ

1. まえがき
2. 若きスタッフが出迎え
3. 目からウロコのゲスト
4. アートに囲まれ眠ろう
5. シンプルフリーな設備
6. 観光産業に一石投げる
7. 電話に咲いた恋の花



若きスタッフが出迎え



日本は観光立国を目指しており、今年も桜のシーズンには多くの外国人観光客で賑わった。

また 2019 年は令和始めの 10 連休があり、来年には東京で 2 度目の夏季オリンピックが開催される。ただ、気軽に安い価格で泊まれる施設は、まだ不足しているのが現状である。

「柴又ふーてんベッドアンドローカル」は固定観念にしばられず、日本が持っているポテンシャルを生かし、若い力で観光の多様化を見い出そうと企画された。「R. project」という会社が運営している。

葛飾区役所の女子職員が暮らしていた独身寮を、リノベーションしたホステルだ。地元住民とのふれ合いを保ちながら、新しい感覚も取り入れた国際色豊かな宿泊施設で、同区と長期の賃貸契約を結んでいる。

フロントでは全員 20 代という若きスタッフが温かく迎えてくれた。ちなみに、この場所は大浴場を改造したそうで、銭湯の雰囲気もある。

案内していただくのは、谷川洋平さんで、現在 27 歳だ。

正月やクリスマス、近ごろは旧正月や桜で満開になる春先が、当施設の繁忙期である。

「大型連休は近いのですが、やっと落ち着いたという感覚ですね。それでもお陰さまで、いまは 8 割から 9 割のお客さまで稼働しています」



目からウロコのゲスト

オープン当初は外国の方がほとんどだったが、最近はSNSで発信した成果もあり、日本人が多く宿泊していると話す。

「海外からは繁忙期以外のシーズンでも、有名アーティストのライブや、観光イベント、各地の祭りを目当てに、来日されるゲストも多いようです」



施設では外国人観光客が何処から来日したのか、パスポートや自主申請に基づいて分析している。ヨーロッパはバックパッカーの文化が広く浸透しており、年齢や性別を問わず、安い宿を探し求めているようだ。

アメリカや中国から訪れるゲストの動向は予想通りだったが、リーズナブルな設定なので、東南アジア方面が伸びていると谷川さんは語る。

国内からは結婚式で上京されるご夫婦も多い。また実家が東京にあり、地方から休日を利用して帰った家族が、滞在するケースも増えている。

最近日本人のビジネスマンから、目からウロコの利用法も教わった。



「IT企業の方がプログラムを3日で制作する、集中セミナーを開かれました。みな徹夜で頑張っておられましたね」

取材中にも、黒いスーツ姿の数名を見かけた。結婚式を家族や友人だけで挙げるカップルが、お色直しやランチで使うためである。イベント会社がネットで探して予約したようだ。

アートに囲まれ眠ろう



施設ではランドリーやシャワーも無料だ。アメニティーも充実しており、24時間利用できる。

夜は23時に施錠するが、専用の出入口をゲストに開放している。和室、洋室、アーティストルームがあり、1人につき3,600円からと手頃な価格だ。

「住宅地ですので、近隣住民に配慮しています。大きな音の楽器などはNGですし、赤ちゃんもご宿泊は厳しいかもしれません」

室内はシンプルな構造だが、エアコンも完備され快適な空間だ。コストをかけずに改築したので、懐かしい昭和の独身寮を思いおこさせる。

施設は4階建てで、2階から3階が通常のゲストルームだ。4人部屋や6人まで宿泊できるタイプもあり、11,800円から利用できる。

最上階の4階は芸術家が描いたツインルームの14室だ。アーティストを支援するフランスの団体に依頼し、仕上げられた力作揃いである。

「この部屋はメキシコの画家に創っていただきました。世界じゅうを旅されて、多様な言語をモチーフに考えたそうです。でも完成した日は徹夜明けて、フラフラでしたね（笑）」

記者もしばしば文学賞に応募するので、思い出し笑いをしてしまった。



シンプルフリーな設備



キッチン誰でも自由に使い、ひと通りの器具や調味料がそろそろ。

設備を使う外国人観光客は半々だ。1泊2泊以上は特別割引を設定しており、ゲストから重宝がられている。

ただ、日本人はシャイで気がひけるらしい。多くが外食するか、近くのコンビニやスーパーで弁当を購入し、予約した個室で食べていると聞く。

ところが最近、日本人の勇気ある主婦が話題になった。外国の方を尻目に、キッチンに多くの食材を持ち込み、オムレツや豚汁を振舞ったのだ。

美味しい料理は万国共通のようだ。

「みなさん、好きなタイミングで作っています。最近アレルギーやベジタリアンの方もおられますし、ハラルなどの制約もありますから。食事を提供する予定はありません」

建物は昭和52年に作られたが、鉄筋コンクリートの頑丈な構造で、耐火性や地震対策などの安全性も、規制をクリアしている。

「ただ、テレビは地デジアンテナの施工をしなければならず、設置していません。その代わりに無料のWi-Fi スポットや、ラジオで情報が得られるよう工夫しています」



観光産業に一石投げる



施設には談話室や会議室があり、平日は1時間1,500円、土日・祝日も2,000円で利用できる。さらに利用者の半数が葛飾区民であれば、半額になるのは耳よりの情報だ。

「地域の方々から、新しい使い道を提案して下さると助かります」

これらの部屋は、昔あったテレビに若い女性が集まって、恋の話に目を輝かせたり、ドラマや歌謡曲に胸をときめかしたりしたはずだ。

発表会や趣味のサークル、女子会に卒業旅行、それにリタイヤした夫婦や、倦怠期のカップルも良いではないか。

「そうですね。使い方に縛られる必要はないと思います。弊社では馬喰町にホステルがあり、ブルートレイン北斗星をモチーフに、鉄道旅行の楽しさが味わえると人気です」

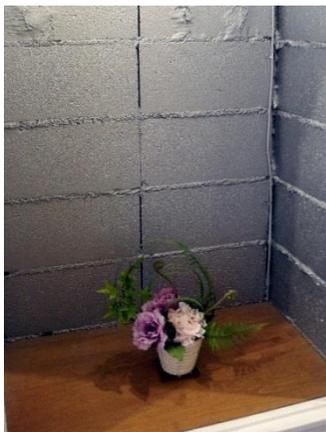
海外では自由な長旅を、安い料金で利用できる文化があり、ホステルやゲストハウスも充実している。

巷では民泊や車中泊も話題になっている。だが旧来のホテルや旅館はいまでも、団体客で賑わった幻想に引きずられているのではないか。

ぜひ観光産業に一石を投じて、新たな文化を根付かせてもらいたい。



電話に咲いた恋の花



勝手な想像だが公衆電話があったと思われる場所に、
趣味の団体がフラワーアレンジメントを置いていた。
きっと昔は恋人との話に花を咲かせていたのだろう。

◆ 写真・文章・編集：隅田 昭

◆ 取材：平成31年4月25日

◆ 発行：令和 元年5月12日

本冊子の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。